

## 岡山大学・倉敷考古館学術連携協定記念展示会 「二万大塚古墳の世界－真備、下道の大豪族－」

岡山大学と倉敷考古館は、2019年5月に学術連携協定を結びました。そこで本センター、岡山大学考古学研究室、倉敷考古館が主催、倉敷市教育委員会が共催となり、倉敷考古館において記念展示会を開催しました。新型コロナウイルス感染拡大の影響により、当初計画よりも期間を短縮して、2020年6月6日～8月2日に実施しました。

本展示では岡山大学所蔵資料のなかから倉敷市真備町に位置する二万大塚古墳の出土品を取上げました。また同じく真備町所在の箭田大塚古墳出土品や2018年の西日本豪雨で被災した真備町歴史



展示室の様子（二万大塚古墳出土埴輪、土器）



見学風景（倉敷考古館提供）

民俗資料館所蔵資料も展示しました。このような展示内容には、今回の事業が真備町の復興を応援することにつながればという思いが込められています。

新型コロナウイルス感染拡大防止に努めた期間中には、405名の方々に展示をご見学いただきました。残念ながら予定されていた講演会は中止となりましたが、県内外の多くの方々に岡山大学と倉敷考古館の魅力をお伝えすることができたのではないかと思います。今後も倉敷考古館との協定を活かした調査研究を進めてまいります。

## 公開講座「考古学と関連科学」を開催します

本センターでは2016年度から「考古学と関連科学」と題した公開講座を実施しています。各回2本の発表を聴講し、質疑や講師との情報交換のためのフリートークもおこなっています。また講座内容に関連した出土品などがある場合には、ミニ展示コーナーも設けています。今年度はコロナウィルスの感染拡大状況を鑑みて、会場開催またはオンラインでの開催を予定しています。会場開催の場合は、岡山大学津島キャンパスで実施いたします。なお定員は会場によって変動があります。詳細はチラシや本センターのホームページなどでご確認ください。

- 第14回 シミュレーションからみた人口と文化**  
2021年11月20日(土) 14:00～16:00  
松本 直子(岡山大学文明動態学研究所)  
山口 雄治(本センター)
- 第15回 高級調理具「石鍋」からみた古代・中世(仮)**  
2022年1月22日(土) 14:00～16:00  
新里 亮人(熊本大学埋蔵文化財調査センター)  
南 健太郎(本センター)
- 第16回 岩陰遺跡からみた古墳時代(仮)**  
2022年3月26日(土)14:00～16:00  
黒住 耐二(千葉県立中央博物館)  
清家 章(岡山大学大学院社会文化科学研究科)

**編集後記** 新型コロナウイルスの感染拡大により、イベントなどを予定通り実施できない状況が続いています。2019年度のキャンパス発掘成果展も次年度に延期せざるをえませんでした。今後はみなさんに安心して成果展を楽しんでいただけるような方法を模索したいと思います(南)。



岡山大学埋蔵文化財調査研究センター  
ARCHAEOLOGICAL RESEARCH CENTER, OKAYAMA UNIVERSITY  
〒700-8530 岡山市北区津島中3丁目1番1号  
TEL・FAX (086) 251-7290  
[ホームページ]  
<https://www.okayama-u.ac.jp/user/arc/archome.html>

2021年10月22日 発行

No.66  
2021 | Autumn



## キャンパス発掘成果展 20回の軌跡

岡山大学の3つのキャンパス(津島、鹿田、三朝)の地下には遺跡があり、本センターでは39年間にわたって建物などの建設に伴い発掘調査を実施してきました。その成果を広く公開・発信するための場となっているのが「キャンパス発掘成果展」です。第1回の成果展は1989年度に開催し、2020年度の「岡山大学への道－近世・近代の津島－」で20回を迎えました。これまでの成果展では縄文時代から近代までの

様々なテーマを取上げ、多くの方々にご参加いただきました。また体験コーナーの設置、講演会やシンポジウムの開催など、いろいろな楽しみ方ができるような取り組みも積極的におこなっています。

近年は文化財を活かしたまちづくりが進められており、成果展をはじめとした取り組みもそれに貢献しています。今回のセンター報では20回にわたる成果展の歩みをふり返ってみましょう。(南 健太郎)

岡山大学  
Okayama University  
Archaeological research center  
Center report  
埋蔵文化財調査研究  
センター報



## キャンパス発掘成果展の歩み

回数	タイトル	期間	見学者(人)	会場(すべて岡山大学)	イベントほか
第1回	縄文・弥生の食生活	1989.11/16～11/18	282	津島キャンパス・学生会館	記念講演会・野外考古学体験教室・ビデオ上映
第2回	まつり ―井戸・墓・祈り―	1990.11/3～11/4	174	鹿田キャンパス・医学部基礎医学等2階	ビデオ上映
第3回	津島と鹿田の4000年	1997.11/14～11/16	363	津島キャンパス・学生会館	講演会・津島岡大遺跡現地説明会・遺跡見学会
第4回	キャンパス発掘成果展	2000.10/16～10/31	188	津島キャンパス・埋蔵文化財調査研究センター	定期開催スタート
第5回	のぞいてみよう!埋文センター	2001.10/20～11/2	317	津島キャンパス・埋蔵文化財調査研究センター	土器接合体験
第6回	使ってみよう!石の道具	2002.10/21～11/1	252	津島キャンパス・埋蔵文化財調査研究センター	石器づくり・使用体験
企画展	鹿田遺跡発掘20周年特別展示	2003.10/18～10/24	370	鹿田キャンパス・病棟1階	鹿田遺跡現地説明会・写真パネル展示
第7回	遺跡の土層を切る	2003.10/27～11/1	109	津島キャンパス・埋蔵文化財調査研究センター	石器探し・土器当てクイズ
第8回	土・技・心	2004.10/26～10/31	253	津島キャンパス・埋蔵文化財調査研究センター	分銅型土製品づくり・文様付け・拓本体験
企画展	鹿田遺跡と鹿田庄	2005.10/20～10/22	344	鹿田キャンパス・病棟1階	
第9回	行き交う人とのもの	2005.10/26～10/30	114	津島キャンパス・埋蔵文化財調査研究センター	猿形木製品色つけ
第10回	兵どもが夢の跡	2006.11/15～11/19	255	津島キャンパス・旧事務局棟	構内戦跡見学会
第11回	水と循環	2009.1/8～12	308	津島キャンパス・創立五十周年記念館会議室	土器接合体験、双六、水の浄水実験
第12回	謎の荘園 鹿田荘 ―集落・条里・領域―	2011.1/6～10	376	津島キャンパス・創立五十周年記念館1階交流サロン	シンポジウム
第13回	農耕のはじまりを考える ―考古学と自然科学の融合、津島岡大遺跡での実践―	2011.7/13～18	223	津島キャンパス・創立五十周年記念館1階交流サロン	種子観察・カルタ、双六、コウコガク・カフェ、シンポジウム
第14回	縄文時代の環境変化と植物利用 ―四千年前の津島岡大遺跡―	2012.9/19～23	264	津島キャンパス・創立五十周年記念館1階交流サロン	土器圧痕観察、石器探し、コウコガク・カフェ、講演会
第15回	鹿田荘の世界	2013.10/21～11/1	2,397	鹿田キャンパス・病院外来診療棟1階	大学病院ギャラリー展示
第16回	鹿田荘の人と時代	2015.1/7～12	545	津島キャンパス・創立五十周年記念館1階交流サロン	烏帽子・絵馬づくり、講演会
第17回	土に歴史をよむ!平野のなりたちとめぐみ	2016.2/9～14	363	津島キャンパス・創立五十周年記念館1階交流サロン	貝合わせ、貝マグネット、講演会
第18回	縄文時代～古代・中世の木工 ―出土品にのこされた技術と知恵―	2016.12/7～11	197	津島キャンパス・大学会館ホール	講演会
第19回	The鹿田庄	2018.7/27～30	136	鹿田キャンパス・JFホール	講演会
第20回	岡山大学への道 ―近世・近代の津島―	2021.2/27～3/5	65	津島キャンパス・総合研究棟1階ロビー	コロナウィルス感染拡大によりイベント中止

これまでの成果展では主に津島キャンパス、鹿田キャンパスの発掘成果を取り上げてきました。1989年度に開催した第1回「縄文・弥生の食生活」に始まり、2021年度までに20回の展示を学内でおこなっています。テーマは縄文時代から近世・近代までの幅広い時代にわたっており、様々な切り口から展示内容を考えています。第4回からは毎年一回の定期開催とし、発掘調査の現地説明会などにあわせた大学病院内で



展示会の様子  
(第16回「鹿田荘の人と時代」、2014年度)

の企画展示をした年もありました。これまで7,895名の方々にご参加いただきました。

また成果展では展示ケースの中のものをご覧いただくことに加え、本物と模造品を使った石器探しや、出土品そっくりのものを自作したりする体験コーナーも好評を博しています。また展示内容に即した講演会やシンポジウムも開催し、最新の研究成果を発信してきました。



体験コーナー（石器探し）  
(第14回「縄文時代の環境変化と植物利用」、2012年度)

## イベント、体験コーナー

構内遺跡の調査研究成果は展示以外の方法でも発信しています。成果展期間中には講演会やシンポジウムをはじめとした様々なイベントを実施し、多くの方々にご参加いただいています。

講演会、シンポジウムでは考古学や関連分野の講



体験コーナー（双六）  
(第11回「水と循環」、2008年度)

師を学内外からお招きし、成果展の内容をさらに深く掘り下げていっています。また、体験コーナーでは毎回子どもから大人まで楽しむことができる企画を考えています。幅広い世代の方々にわかりやすく構内遺跡のことを学んでいただいています。



講演会  
(第19回「The鹿田庄」、2018年度)

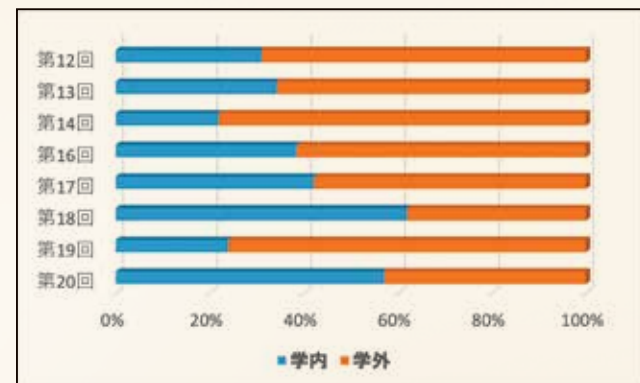
## 見学者の推移

センター報No.37『ようこそ！展示会へ』(2007年)では、第1回から第10回までの見学者の傾向についてまとめました。ここでは第11回から第20回の状況と比較して、近年の見学者の動向についてみてみましょう。

### 学内・外の内訳

第1回では学外からの見学者の割合は3割程度でしたが、第10回では5割を超えていました。

第11回以降では学外の方々の割合は基本的に5割を超えており、第14回、第19回では8割近くにまで上っています。学外の方々に構内遺跡の魅力を感じていただけていることの現れでしょうか。第18回は逆に学内の方々が6割を超えています。この回は会場が学内の方々の目に留まりやすいところであったことが影響していると思われます。

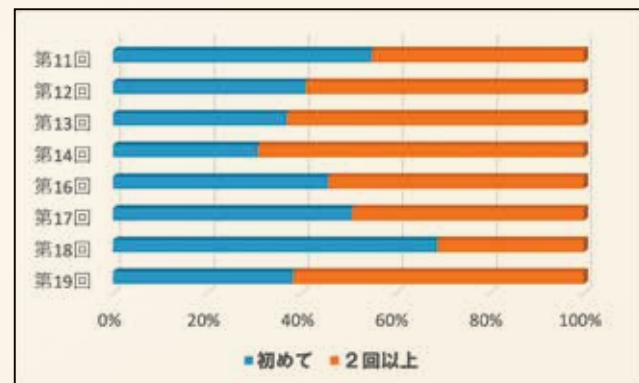


学内・外の比率

### リピーターの割合

第6回から第9回では徐々にリピーターの割合が増える傾向にありました。その後も第11回以降リピーターの割合が増加し、第14回では約7割に達しています。第16回以降は5～6割がリピーターの方々と、初めて来られた方々がそれ以降も毎年参加してくださっていることがわかります。学内外の内訳で特殊な傾向をみせた第18回は初めて見学された方が約7割を占めています。会場や内容によって見学者の構成が異なっていることは注目されます。

このように成果展を見に来てくださる方々の様相は、30年前から大きく変化してきています。これからも成果展を継続し、学内外の方々に構内遺跡の調査研究成果を発信していきたいと思います。これからの成果展にもご期待ください。



リピーターの比率